

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：82503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01215

研究課題名(和文)総合博物館の特性を活かした古写真データベースの作成とその活用

研究課題名(英文)Utilization of the database of old photographs constructed by museum staffs with various specialties

研究代表者

小田島 高之 (ODAJIMA, TAKAYUKI)

千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員(移行)

研究者番号：70250131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果の概要(和文)：従来は歴史・民俗資料として取り扱われてきた古写真や絵はがきなどを異なる複数の自然史系の研究者により写真の背景に至るまで詳細に解析した結果の情報や現地の現況写真、撮影地の緯度経度情報等と併せてデータベース化し、一般公開を行った。また、それらのデータベースの成果を展示や観察会などの博物館活動で活用した。その結果、古写真や絵はがきは過去の自然環境を物語る自然史系の資料としても十分に活用できることを示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、従来、単なる歴史・民俗資料として取り扱われ、その主たる被写体から読み取れる情報のみを利用されてきた古写真や絵はがきについて、写真の背景の情報にも注目することによって、実は自然史系の資料としても十分に活用可能であることを示した点にある。

研究成果の概要(英文)：A database in conjunction with the information of the result that analyzed an old photograph or the picture postcard in detail up to the background of the photograph by natural history researchers in several specialties, the present photograph and the latitude longitude information of the shooting place was compiled and opened it to the public. And the result of the database was utilized by museum activities such as the exhibition and observation meeting. As a result, the old photograph and the picture postcard were able to show that they are very useful as a material of the natural history to show past natural environments.

研究分野：博物館学、地理学

キーワード：絵はがき 古写真 博物館 資料整理 データベース 環境変遷 環境解析 絵葉書

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

多くの博物館で絵はがき、古写真といった写真資料を収蔵している。これらは写真を撮られた当時の人々の生活の一端を物語る状況証拠として、歴史・民俗分野の第一級の博物館資料である。そのため、写真資料の位置づけについてはすでにさまざまな議論がある。まず、かつてはメディアとしての役割を担っていた絵はがきと、単に人々の生活の一端を写した「写真」とを同じ土俵で論じてよいものかというものである。もう一方で、古写真については、資料名の付け方についても議論のわかれるところである。年代、撮影場所の情報とともにタグを付す必要があるのか、あるいは、撮影者の意図は何であったかを考えて資料名を付す必要は無いのか、など、写真資料の位置づけ・整理方法については多くの議論がある。

しかしながら、これらの議論はあくまで歴史・民俗資料としての議論である。一方で、写真資料には、撮影者が意図した被写体の背後には当時の「自然」が写されている。その自然に注目すれば、写真資料は植物学や地形学など、自然史系の資料となる可能性を秘めている。

写真にはしばしば主対象ではなく、その背景に重要な情報が隠れていることがある。また、同じ場所の違う時期の写真を見比べることによって新たな事実を発見することができる。



写真 1

写真 2

写真 3

たとえば、上の写真1～3は、アングルは異なるがほぼ同じ海岸を撮影した物で、3が一番古く、次が2、そして1が一番新しい物となる。3のかすかに見える岩礁は実は2や3に写っている岩山が波浪により侵食されたものなのである。注意深く見ると2と3の岩山にも変化がある。左手の岩山の頂上部に注目すると、より古い3には2には存在しない植生が確認できる。また、岩山自体も侵食の影響で2のほうが3よりもひとまわりスリムになっている。

これは、地形学の観点から時代の違う複数の写真を見ることによって、波浪による海岸の岩山の侵食のようすが明らかになった例であるが、このように見る者の専門性によって写真から読み取ることができる情報が異なるのである。

研究代表者の所属する博物館は総合博物館として、幅広い研究分野の職員を有している。この特性を活かして、歴史学・民俗学の観点のみならず、動・植物学、地理学や地形学の観点からも古写真に写された情報を細部にわたって読み取ることができる。そこから得られた情報をデータベースとして公開・活用することによって、写真資料が歴史・民俗資料のみならず、より多くの研究分野に役立つものであることを明らかにすることが可能となる。

2. 研究の目的

本研究は、代表者が所属する博物館の写真資料(表1)から複数の異なる研究分野の職員がその解析にあたり、読み取った情報をデータベースとして公開すること、また、そのデータベースの活用をとおして、有効性を検証することを目標とする。具体的には以下のとおりである。

表1 本研究が対象とする古写真資料

コレクション名	資料形態	資料点数		年代
		総数	うち千葉県内	
林辰雄コレクション	写真	71,000	71,000	昭和30～40年代
菱田忠義コレクション	絵はがき	約7万点	約6千点	明治末～昭和期
吉野章郎コレクション	写真	不明	不明	昭和40年代～平成期

(1) 異なる研究視点からの写真資料の解析

本研究では、従来おもに歴史や民俗など人文系の研究資料として取り扱われてきた写真資料を総合的な博物館資料と捉え、動・植物学、地理学や地形学などの自然誌の観点からも解析を試みる。その試みにより、これまで資料に埋もれていた情報を抽出し、(2)のデータベース上で資料と共に一元管理することによりその資料の価値を高めることが一つの目的である。

(2) 写真資料データベースの作成

本研究では、写真資料から読み取られた情報を撮影された“場所”を基準に、撮影された“時代”順に並べ替えることが可能なデータベースの作成を目標とした。本データベースの完成により、写真資料によってその場所の変遷を容易に明らかにすることができる。

(3) データベースの活用とその検証

本研究によって作成されたデータベースは、ウェブ上で公開し、一般の方やさまざまな分野の研究者に利用してもらうことによってその有効性を明らかにする。また、観察会や展示といった博物館活動の中でも活用することでその有効性を検証する。

3. 研究の方法

本研究は、その対象とする絵はがきや古写真は主に千葉県内及びその周辺地域のものとし、基本的に以下の(1)から(4)の手順によって進める。

(1)古写真データの作成

絵はがきや古写真をスキャンしデジタル化すると共にタイトルや年代情報、市町村レベルの位置情報等のテキスト情報を抽出する。

(2)データベース登録

(1)で作成したデジタル画像とテキスト情報をデータベースに登録する。このデータベースが本研究のベースとなる。

(3)現況調査および古写真との比較

絵はがきが多く存在する銚子、成田山、水郷地域、清澄山など、いくつかの調査区域毎に調査を行う。調査は、複数の分野の研究者で行い、絵はがきや古写真と同一アングルでの写真を撮影すると共に過去と異なる点を記録する。撮影地の緯度経度情報について同時に記録する。

(4)データベースへの追加情報の登録とその活用

既にデータベースに登録済みの古写真の追加属性として、(3)で得られた現況写真や情報を調査毎に追加登録する。

データベースはウェブ上で一般公開し、一般の方から研究者までさまざまな方々の利用に供する。また、登録されたデータを企画展示や観察会等の博物館活動においても活用し、その有効性の検証を行う。

4. 研究成果

本研究によって下記の研究成果を得た。

(1)古写真データベースの作成・公開

単なる絵はがきや古写真の画像が見られるデータベースとは違い、その絵はがきや古写真が撮影された詳細な緯度経度や現在の状況写真を知ることができる古写真データベースを作成し、その公開をおこなった。緯度経度情報まで登録されている古写真データに関しては、地図上にその分布をプロットすることも可能。データベースには現在1万件あまりのデータが登録されており、博物館のホームページからリンクが張っており、自由にアクセスできる。

・千葉県立中央博物館 資料データベース：<http://search.chiba-muse.or.jp/DB/>

データベースを検索された皆様からは、絵はがきのその場所がわかることや現在の状況が写真で確認できることについて、しばしばお褒めの言葉を頂いている。

(2)古写真の博物館活動における活用

収蔵品である古写真資料はデータベースとして整理されることにより、さまざまな活用が容易となった。主な活用用途は以下に示すとおり企画展示や観察会である。

企画展示

近年は表2に示すように多くの展示で古写真が活用されており、特にトピックス展「房総の海の遊び」や収蔵資料展「ノスタルジック・ポストカード」は古写真や絵はがきをメインの展示物とした展示である。この2つの展示内容は後にデジタルミュージアムのウェブコンテンツとして再編集し、展示期間を超えて広く公開し、人気を博している。

表2 古写真データを活用した主な企画展示

会期	タイトル	来館者数
平成31年2月23日～6月2日	春の展示「千葉の鉄道物語」	25,337人
令和2年2月15日～6月28日	春の展示「うめ・もも・さくら」	2,236人
令和2年2月22日～8月31日	チバミュージアムフェスタ2020「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史	11,255人
令和2年7月18日～8月31日	トピックス展「房総の海の遊び」	6,655人
令和3年3月23日～5月30日	収蔵資料展「ノスタルジック・ポストカード」	1,310人

観察会

令和元年度まで毎年行われていた「房総の里を歩く」という観察会(近年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止している)では、古写真や絵はがき資料をふんだんに活用し、観察地の当時の自然環境を説明した。写真には図や文とは桁違いの説得力がある。観察会の資料としてはこれ以上有効な資料はない。

本研究では、上記のとおり絵はがきや古写真が撮影された場所の詳細な緯度経度や現在の状況を示す写真を知ることができる古写真データベースを作成・公開した。また、企画展示や観察会において、従来、人文系資料としてしか取り扱われていなかった古写真や絵はがきを過去の自然環境を現在に伝える資料として活用することにより、古写真や絵はがきの科学的な資料としての有効性を検証した。そして、それらの結果、古写真や絵はがきの有効性を示すことができた。今後もさらにデータの追加を積み重ね、データベースの価値を高めていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 西谷大・島立理子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 197
3. 書名 総合資料学とフィールド調査 In 歴史研究と<総合資料学>	

〔産業財産権〕

〔その他〕

千葉県立中央博物館 令和2年度収蔵資料展「ノスタルジック・ポストカード」パンフレット, 2021, 4P.

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	八木 令子 (YAGI REIKO) (00250134)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員(移行) (82503)	
研究分担者	島立 理子 (SHIMADATE RIKO) (00332354)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員(移行) (82503)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	下稲葉 さやか (SAYAKA SHIMOINABA) (00761545)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行） (82503)	
研究分担者	佐山 淳史 (SAYAMA ATSUSHI) (20784359)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行） (82503)	
研究分担者	山本 伸子 (YAMAMOTO NOBUKO) (90535212)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行） (82503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関